

<株式会社エフエム東京 第365回放送番組審議会議事録>

1. 開催年月日:平成22年2月2日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席委員(4名)

子安美知子 委員長 内木文英 委員
渡辺貞夫 委員 香山リカ 委員

◇欠席委員(3名)

青池慎一 副委員長 内館牧子 委員
横森美奈子 委員

4. 議題:

【番組名】「CHEER UP STATION～Countdown to Vancouver」(ダイジェスト版)

【放送日時】2009年12月 9日(水)13:50～14:00放送分

2010年 1月27日(水)13:50～14:00放送分

【番組概要】

今年2月12日からカナダ・バンクーバーで冬季五輪が開催されます。日本からは、総勢94名の選手が代表として参加することとなりました。本番組は、ちょうど100日前にあたる11月4日からオンエアを開始。練習の合間に取材した選手へインタビュー素材を軸に、選手たちが「勝負のとき」を目指しながら修練している過程での「心境」や「思い」を紹介しています。

聞き手は、フィギュアスケートの日本代表として88年カルガリーオリンピックに出場し、“14歳、銀盤の美少女”と話題となった八木沼純子氏。選手が折々で、どのようにコンディションを整えていくかなど自身の経験談を添え、また各競技の紹介や魅力などを伝えながら、本番に向かう選手の微妙な心理変化を掬い上げていきます。

これまで約40名の選手の声を紹介してきましたが、今回お聴きいただくのは、モーグルの上村愛子選手とリュージュの原田窓香選手の回です。モチベーションや緊張感について、またあまり知られていないリュージュについては、選手自身が観戦のポイントを語っています。このような構成はオリンピック本番前日までとし、開催期間中は、現地からのレポートを中心としたものに変更する予定です。

<試聴時間:約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 微妙な心理変化にまで突っ込んでインタビューして欲しかった。聞き手が自身も競技者だった方なので、遠慮してしまう部分もあるのだと思う。ただ、ラジオだからこそ、微妙な心理や本音を引き出す、ひとひねり加えた演出が欲しかった。
- 聴取者の期待を超えるコメントが出てくるのか、ということが重要になる番組だと思う。ただ、相手が競技者なので、マイクを向けただけでは、耳をひくような面白いコメントは出てこない。それをどう引き出すのかが、聞き手の力にかかっている。
- 良い番組だと思うのでぜひ頑張っていたきたい。選手の人間性が見えてくるから、本番への関心が深くなる。選手にインタビューをするという番組の企画自体は面白い。ただ、インタビューの突っ込み方が問題。たとえば、プライベートな出来事や感情をオリンピックへの意気込みに結びつけていくなど、もっと捉え方を面白くすることが大切。映像が無いラジオだからこそ、選手の素顔の引き出し方は聞き手の手腕によるところが大きいと思う。こんなことを聞いたら面白いんじゃないかということを事前に考えて、質問を工夫して取材にあたってほしい。
- 選手のオリンピックに向けての緊張感が伝わってきて、とても引き込まれた。リュージュの原田選手の競技中の情景の説明からは、映像では見られないようなリアルな情景が自分の中に広がり、映像だけでは伝わってこないようなリアルな興奮が伝わってきた。また、上村愛子選手の「一日一日を無駄にしなかった」というコメントにはやられたと思った。映像が無い分、選手たちの内面世界を通して見えてくる情景を楽しめる番組だと思った。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放 送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」
2月26日(金) 5:00～8:30 放送
- ② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会 3月2日(火)に開催することを決めた。

以上